

# 教養科目「情報検索とその活用」に関する二年目の報告

「情報検索とその活用」講義担当グループ

大熊 孝・伊藤 守・永井雅人・卯田 強・増子祥子・栗原道夫・中野美智子  
高橋菜奈子・小山葉子・寺尾清志・斎藤香織・佐藤裕介・斎藤久子・市川 修

## A Second Report on The General Lecture “Information Retrieval and Its Application” as a Liberal Art Subject

The Lecture Group of “Information Retrieval and Its Application”

Takashi OKUMA, Mamoru ITO, Masato NAGAI, Tsuyoshi UDA, Sachiko MASUKO, Michio KURIHARA,  
Michiko NAKANO, Nanako TAKAHASHI, Yoko KOYAMA, Kiyoshi TERAOKA, Kaori SAITO,  
Yusuke SATO, Hisako SAITO and Osamu ICHIKAWA

The university library in the 21th century will be characterized as “Digital Library” and the university students will require the advanced library literacy.

In 1996, we started the general lecture “Information Retrieval and Its Application” as a liberal art subject in the cooperation of the faculty staff and the librarian for students. In this paper, we describe the concept, method and evaluation of the second lecture which has been done in 1997. According to the students’ evaluation after the lecture in the same way last year, this lecture was very useful for students attended.

**Key Words:** Digital library, Internet, Information retrieval, Library literacy

### 1. はじめに

近年、インターネットの普及に代表される情報化の進展や電子ジャーナルの出現によって図書館の電子図書館化が急速に進みつつあるが、それにともなって図書館の利用の仕方も高度に複雑化しはじめている。研究者や学生が論文を作成するに際して、従来では限定された範囲での文献検索であったが、現在では広大な電子情報のネットワーク空間（サイバースペース）での情報検索へと広がってきている。そのサイバースペースを自由に活用するためには、それらの情報機器の操作と情報検索の技術に習熟していなければならない。しかし、現在では、その操作と検索の技術を効率的に習得させる「ライブラリー・リテラシー」ともいふべきものが確立されていない状況にある。

そこで、論文作成のためのライブラリー・リテラシーを主眼とした教養科目「情報検索とその活用」が、新潟大学大学教育開発研究センターと新潟大学附属図書館が協力して、平成8年度第2期から試行的に開講された。この実践内容については、大学教育開発研究センター発行の「大学教育研究年報 第3号」（平成9年6月）に『教養科目「情報検索とその活用」の講義実践報告』（pp.86～93.）として概要が報告されているので、それを参照されたい。

平成9年度はこれを引き継ぎ、2年目の「情報検索とその活用」が表1のように実施された。本報告では、この2年目の講義の実施状況について、昨年報告していないレポートの課題内容や、新しく工夫した点、そして本講義の位置付けなどについて述べることにしたい。

## 2. レポート課題と評価方法

本講義の評価は、レポートを提出してもらい、その評点と出席状況を勘案して、成績を与えることにしている。その課題の説明は、5回目の講義で、昨年のA評価のレポートを示しながら行い、13回目の講義までに中間レポートを提出させ、14回目の最終講義でそれらにコメントを与えるとともに、良いレポートについては簡単な発表をしてもらい、その1週間後に手直した最終レポートを提出してもらおう方法をとった。

受講定員は教室の関係で50人であるが、レポートを提出し評点を受けたものは36人であった。その評価の内訳は、A15人、A' 8人、B 9人、C 4人であり、成績は比較的良好であったといえるが、14人が何らかの理由で聴講を途中放棄したことになる。各授業の平均欠席者数は11人であり、少し欠席率が高いように思われるが（14回目の最終講義が定期試験期間中であり、21人が欠席してしまったことが大きく影響しているようである）、レポート提出率はこの欠席率からみて妥当なところかと考えている。昨年度のレポート提出者も50人中36人であり、奇しくも同じ結果であった。

（なお、最近、教養科目に関しては一般的に聴講を途中放棄する学生が増えていることから、平成10年度からは途中放棄した者には0点評価を与えることにしたため、成績の平均点が下がることをおそれて、聴講放棄者が減るのではないかと期待している。）

レポートの課題内容は、各自に検索テーマを設定してもらい、そのテーマに関連して、冊子体の目録、CD-ROM、OPAC、インターネット検索等によって、図書・雑誌・新聞等を検索してもらい、その検索過程の試行錯誤や文献ヒット件数、重要と思われる文献名などを報告してもらうものである。したがって、テーマの内容について勉強したことを報告してもらうものではない。

しかし、そのテーマは、36人中4人が臓器移植関係を選んだ他はすべて異なるテーマであり、以下のように多種多様であった。それらは、卒論やゼミの研究レポートにしても遜色のないものばかりであり、学生達の関心が多様であるとともに、問題意識が健全であることも伺い知れた。本講義の主眼は論文作成のための

情報検索の仕方にあるわけだが、来年度は時間の許す範囲で内容まで勉強してもらい、その簡単な報告も受けてみたいと考えている。

なお、レポートの結果を見ると、電子メディアを利用した検索はかなり行われているようであったが、冊子体検索やカード検索は少なかったようであり、OPAC入力件数の少ない現段階では、電子メディア以外の検索にも習熟させる必要性を感じた。

〈学生の選んだ検索テーマの例〉

・アイルランド問題・日本におけるフェミニズムと女性差別・高齢社会における家族・いじめとカウンセリング・臓器移植・戦争犯罪・現代中国の国防軍事とその動向・天皇制と言論の自由・平和憲法と自衛隊・新左翼・工業化発展と環境汚染・外食産業の動向と経営・移動体通信技術の発展とその社会的影響・日本の公債問題と財政危機……。

## 3. 二年目の新しい試み

平成9年度は2年目ということで、昨年の反省に立ち、いろいろ新しい試みがなされた。その中で、まず、テキストを作ったことが特筆されるのではないかと考える。

そのテキストは、本文55頁、付録42頁で、目次などを含めると合計100頁を越えるもので、教員と図書館職員が手分けして執筆し、手作りで印刷・製本したものであった。誤植などもあり、完成版から遠い存在であったが、学生からは「手作りの感じがなかなか良かった」という評価もあり、教職員の授業に対する熱意を学生に感じてもらったのではないかと考えている。

構成は、各講義時間ごとに頁を割り付け解説する形式としたが、講義時間と原稿量は必ずしも一致するものではなく、「体系的に目次を立てた教科書風にすべきでないか」という反省意見も出された。付録は、パソコンの基本操作をやさしく解説したものである。パソコンに初めて触れる学生から、かなり慣れている学生もいるというバラツキのある状況下で、自習可能なこの付録は好評であったようである。ただ、このテキストには、索引ないしインデックスが設けられてお

らず、利用しにくいという批判があった。

平成10年度は、テキストの内容を、体系的な目次建てのもとに編纂するとともに、利用しやすい形態にしたいと考えている。それがおそらく、将来行われるであろう高度なライブラリー・リテラシーに役立つのではないかと考えている。

次の新しい試みとしては、授業で自作のビデオや市販のビデオを多用したことである。

自作のビデオは担当教員の一人である永井が作成したものであるが、パソコンの基本操作を電源のオン・オフから、アプリケーションの起動方法、ウィンドウズの基本的な操作方法、キーボードの利用法までを説明に合わせて実習できるようにしたものであり、実習時間を含めて約80分で終了できるものとなっている。

初心者は操作ミスや機器の問題などから不用な混乱に陥りやすいものであるが、ビデオは画面を通じて操作を具体的に示しているためミスが少なくなり、無用な混乱を回避することが可能であった。実習時には、数人の図書館職員がサポータースタッフとして、個々の疑問やトラブルに対応した。ビデオは自作であるために画質や編集方法等に若干の問題があるが、逆にこれも学生には親近感を与える結果となったようである。更にこうした形態で行うことにより、初心者以外の学生も比較的飽きることなく聴講していたという効果もあったように感じられた。

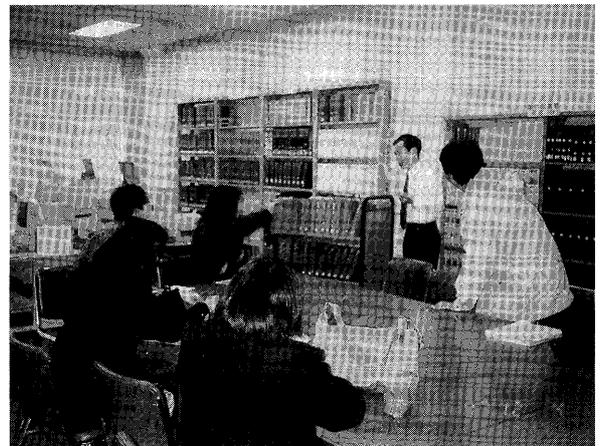
今回は多くのサポータースタッフがいたので授業が円滑に進められたが、50名程度の初心者を対象とした場合、ビデオを活用して2、3名程度のサポータースタッフがいれば、円滑なガイダンスが可能であることがわかった。

市販のビデオは、昨年は1回だけの使用であったが好評であったので、今年は数回使用した。ビデオの内容はなかなか良くできているのだが、大学生を対象とするには少し冗長であったり、無理なドラマ仕立てに難があるように思われた。しかし、ビデオ内容について質問することをあらかじめ予告していたため、学生の注意を引きつけ、理解を高めたのではないかと考えている。

もう一つの新しい試みは、図書館職員は人前で話すことに慣れていないということで、授業の前日に集ま

れる人が集まって、リハーサルを行ったことである。互いに問題点を指摘し合い、可能なかぎり学生の理解しやすいように授業を組み立て直した。これは、図書館職員の研修になるとともに、将来の高度なガイダンスのためのノウハウを蓄積できたのではないかと考えている。

その他、細かい工夫もいろいろ重ねた。例えば、OPACの演習でも、検索すべき書名を個々に与え、実際に当該の本を探させる課題を出したが、入力の方法によって検索がうまくいったりいかなかったりすることを実感させ、OPACといえども侮れないことを印象づけるようにした。しかし、書名が短い場合などに、スムーズに完全一致検索できるテクニックを駆使できる学生はまだ少ないようであり、次年度はその教え方に一層の工夫が必要であると感じた。また、参考文献の書き方は教えたが、参考文献を見て雑誌か図書をすぐに識別できる学生は少ないようであり、この辺の教え方にも工夫がいきそうである。



#### 4・外部からの問い合わせと本講義の位置付け

この講義の概要については、前述のように当大学の「大学教育研究年報 第3号」に掲載するとともに、第44回国立大学図書館協議会総会（平成9年6月25～26日）でも報告させていただいた。そのためか、この講義に関して全国の大学図書館から20数件におよぶ問い

合わせがあった。特に、南イリノイ大学新潟校（新潟県中条町）の図書館長アナマリー・ヴェルテカ氏と岡山大学の図書館職員2名は、当大学まで来られ、授業まで参観された。なお、問い合わせいただいたうちの12大学には、テキストを不完全であったが送付させていただいた。

これらの問い合わせの中で、特に問題となったのは「教員でない図書館職員がどのような資格で勤務時間内に講義に参画できるのか？」という疑問であった。われわれはこれについて以下のように考えているので、御批判いただければ幸いである。

まず、この講義は当面3年間だけ試行的に実施されたもので、4年目以降は新たに考え直すことが前提となっている。ついで、この講義の担当者は図書館長と他3人の教員であり、図書館職員の参画は「業務の延長としてこの講義に協力する」ものと位置付けている。それは、学生に対してライブラリー・リテラシーの高度なガイダンスが要請されているが、それを実施するには相当の時間数が必要であるとともに、職員にもそのガイダンスを実行し得る資質向上の研修が求められており、この講義がちょうどそれを可能にする場であったからである。

本講義は、上述したように、学生に論文作成を目的として複雑高度化したライブラリー・リテラシーを習得してもらうことに主眼があるが、パソコンの基本的操作やインターネットの初歩的概念にも時間を割いている。これは、当大学の学生に情報処理教育が十分に行き渡っていないと考えたからである。だが、当大学はもちろん高校教育・義務教育を含めて情報処理教育が急速に整備されつつあり、近い将来、この種の講義は論文作成を目的としたライブラリー・リテラシーのみに焦点を絞ってよいのではないかと考えている。平成10年度は3年目ということで従来の講義形式を引き

継ぐが、4年目以降は、講義内容を変更して継続するか、あるいは、図書館独自のガイダンスとして別途実施するか、この講義の位置付けを再検討することになっている。

## 5・おわりに

この講義に対する学生の評価を表2に掲載した。アンケートは試験期間中の最後の授業で行われたため欠席者が多く、回答者は28人に過ぎなかったが、27人から期待どおりの講義であったという評価を得た。最終講義に出席できなかった学生などに対しても、今後は、ホームページに同じアンケートを掲載し、回答できるようにしたいと考えている。

その他、反省すべき点は多々あるが、「せっかく学生一人ひとりにe-mailのアドレスを持たせたのにその使用が足らなかった」と、学生および教職員から指摘された。来年度は、より一層e-mailを活用することが望まれる。また、著作権の問題については全く触れなかったが、電子化と著作権の関係は重要であるとともに、文献引用のルールを学生に徹底させる意味でも、来年度は著作権問題に触れることにしたいと考えている。

なお、講義の初回に「電子図書館の発展によって、本の図書館は減びるか？」という設問を出したが、そのとき存続するとしたものが34人、減びるとしたものが14人であった。講義の最終回にも同じ設問を行い、この比率がどのように変化するかを見ればよかったと反省している。

3年目の講義は、テキストを一層充実させ、課題や回答にe-mailを活用し、ライブラリー・リテラシーの高度なガイダンス形態をある程度完成させたいと考えている。

表1 情報検索とその活用（後期 木曜2限）講義日程

回	月日	内 容 標 題	担当教官	図 書 館 職 員	教 室
1	10/16	図 書 館 と 情 報 化 社 会 (講 義)	大熊 孝		教養校舎C181
2	10/23	パソコンの基本機能と操作1 (演習)	永井雅人	*中野美智子、佐藤裕介、 寺尾清志	〃
3	10/30	パソコンの基本機能と操作2 (演習)	永井雅人	*中野美智子、佐藤裕介、 寺尾清志	〃
4	11/6	E-mail の 使 い 方 (演 習) (internet, home pageを含む)	卯田 強	*中野美智子、佐藤裕介、 寺尾清志	〃
5	11/13	学 術 情 報 の 使 い 方 (講 義)	伊藤 守		〃
6	11/20	情 報 検 索 概 論 (講 義 と 演 習)	伊藤 守	*中野美智子、高橋菜奈子、 小山葉子	〃
7	11/27	雑 誌 等 情 報 検 索 1 (演 習)	大熊 孝	*栗原道夫、齋藤香織、 小山葉子	図 書 館
8	12/4	雑 誌 等 情 報 検 索 2 (演 習)	大熊 孝	*栗原道夫、齋藤香織、 小山葉子	〃
9	12/11	雑 誌 等 情 報 検 索 3 (演 習)	大熊 孝	*栗原道夫、齋藤香織、 小山葉子	〃
10	12/18	レポ-ト作成に向けた説明と演習	伊藤 守	*栗原道夫、齋藤香織、 小山葉子	教養校舎C181
11	1/8	図 書 情 報 検 索 1 (演 習)	大熊 孝	*増子祥子、寺尾清志、 高橋菜奈子	〃
12	1/22	図 書 情 報 検 索 2 (演 習)	大熊 孝	*増子祥子、寺尾清志、 高橋菜奈子	図 書 館
13	1/29	図 書 情 報 検 索 3 (演 習) (internet を 含 む)	卯田 強	*増子祥子、寺尾清志、 高橋菜奈子	教養校舎C181
14	2/5	ま と め	大熊 孝 伊藤 守 永井雅人 卯田 強	全 員	教養校舎C181

\*は演習責任者

表2

教養科目「情報検索とその活用」

(1998年2月5日) アンケート調査の回答結果

- (1) 学部・学年について  
 (回答者) 人文学部2年2名、法学部2年9名、3年2名、4年1名、学年記入なし2名、  
 経済学部2年5名、3年2名、4年1名、教育学部2年4名  
 合計28名 (受講者50名の56%にあたる)
- (2) この授業を受ける以前のコンピュータ使用経験について  
 1. コンピュータの類に触れたことは全くない……2名 2. ファミコン (ゲーム) 等の  
 経験はあるが、パソコンの経験はない……2名 3. パソコンに多少触れたことがある……  
 ……9名 4. 講義で受講した程度……7名 5. 日常的に使っている……8名
- (3) この授業を選択した理由は何か。(複数回答可)  
 1. コンピュータそのものに興味があった……12名 2. 情報検索のやり方について知り  
 たかった……16名 3. この授業を受けて図書館をフルに活用したいと思った……8名  
 4. 文系でもコンピュータリテラシーが必要と思った……7名 5. 専門の学習を進める  
 上で必要になると思った……2名 6. 講義概要を読んで興味を持った……9名 7. そ  
 の他……1名 (E-mailをしてみたかった)
- (4) この授業は期待していたような内容でしたか。  
 1. はい……27名  
 2. いいえ……1名 (理由: コンピュータ)
- (5) この授業で有益だったのはどんなことですか。(複数回答可)  
 1. コンピュータの操作手順……13名 2. メール……9名 3. インターネット……12  
 名 4. レポート作成法……5名 5. 調査研究の手順……12名 6. 情報検索概論……  
 9名 7. 印刷体資料を使っての情報検索……8名 8. CD-ROMを使っての情報検索  
 ……18名 9. 新潟大学OPAC検索……7名 10. 図書館ツアー……9名 11. 特になし  
 ……1名
- (6) この授業でやらなくてもよいと思われることはどんなことですか。(複数回答可)  
 1. コンピュータの操作手順……4名 2. メール……5名 3. インターネット……0  
 名 4. レポート作成法……1名 5. 調査研究の手順……0名 6. 情報検索概論……  
 0名 7. 印刷体資料を使っての情報検索……1名 8. CD-ROMを使っての情報検索  
 ……0名 9. 新潟大学OPAC検索……1名 10. 図書館ツアー……1名 11. 特になし  
 ……16名
- (7) 講義と実習時間の配分はどうか。  
 1. 適当であった……16名 2. 実習時間をもっと長くする……11名  
 3. 実習時間をもっと短くする……1名

(8) グループ毎での演習方法について、時間配分 (20分毎に移動) はどうでしたか。

1. 適当であった……12名 2. 時間が不十分であった……16名  
 3. 時間が長すぎた……0名

(9) 授業の目的等が明確で、スムーズに実習を行うことができたか。  
 強くそう思う……3名 そう思う……19名 どちらでもない……5名  
 反対だと思ふ……1名 強く反対だと思ふ……0名

(10) 授業の内容やテーマは適切でしたか。  
 強くそう思う……6名 そう思う……16名 どちらでもない……6名  
 反対だと思ふ……0名 強く反対だと思ふ……0名

(11) テキストは参考になりましたか。  
 強くそう思う……6名 そう思う……11名 どちらでもない……10名  
 反対だと思ふ……1名 (理由: テキストよりプリントの方が役に立った)  
 強く反対だと思ふ……0名  
 テキストについての感想

良かった点

- ・初めてでも使いやすい良かった ・授業中はつきりわからなかったところをテキストによっ  
 てわかるようになりやすかった ・お金がただでよかった ・パソコン操作の基礎知識などが  
 書かれてあって勉強になった ・手作りの感じがなかなか良かった ・わかりやすかった
- ・授業で聞き逃したことを捕えた ・わかりやすくていいと思う ・内容的にも情報量も  
 多かった

改善すべき点

- ・困った時にどこをみればよいかよくわからなかった ・なぜ紙の表にしか印刷してない  
 のか気になった ・時々どこに何が書いてあるのか探すのに大変なことがあった ・テキ  
 ストの利用率が低い ・もう少しみやすく ・少々わかりづらいところがあった ・悪く  
 はないがインデックスの充実と製本 (特に後のページが抜けやすかった) の改善を希望  
 ・毎時間のプリントをテキストと組み込んでほしいかった ・太すぎて持ち運びに不便  
 ・ホームページの数が多すぎると思う、使えるものだけ記載すべき

(12) プリントの使用は適切でしたか。  
 強くそう思う……9名 そう思う……13名 どちらでもない……5名  
 反対だと思ふ……1名 強く反対だと思ふ……0名

(13) 教員が授業に熱意をもってしていると感じましたか。  
 強くそう思う……12名 そう思う……12名 どちらでもない……4名  
 反対だと思ふ……0名 強く反対だと思ふ……0名

マルチメディア教室 (C-181) と図書館について

- ・マルチメディア教室がもう少し長く利用ができればいいです (5名) ・図書館のJ-BISC等の利用時間を延長してほしい ・図書館のCD-ROMが使える時間をもっと増やしてほしい (レポート提出締め切り前は特に混雑して、やりにくかった。その頃だけでも増やして欲しいと思った) ・図書館でパソコン操作をしている時も分からないことがあつたら教えてくれる先生がいつもいいです ・図書館にもメールのソフトを入れてほしい

その他

- ・授業の目的、内容、方法が大変良かったけれど、実際に読みたい本 (新大にある) の所在を調べたところ、最近出版された良さそうな本がほぼ先生のところにあるということとは残念に思う

(4) 指導者の数は十分でしたか。

1. 十分ではないが現状のままでもやむを得ない……2名
2. 操作に慣れるまでは10名程度に対し1名程度の指導者が必要だ……2名
3. 操作に慣れるまでは20名に対し1名程度の指導者が必要だ……1名
4. 現状のままでもよい……21名
5. その他……2名 (もう少し少なくても十分だったのでは、もっと少なくてよい)

(5) この授業にどの程度出席しましたか。

1. ほぼ毎回出席した……25名
2. 半分程度は出席した……3名
3. ほとんど出席しなかった……0名
- さしつかえなければ欠席の理由を書いてください。
  - ・最初の「コンピュータの使い方」は必要ないと感じた
  - ・体調がすぐれなかった
  - ・風邪をひいての欠席
  - ・教育実習
  - ・寝すごした

(6) 授業以外にもコンピュータを操作していましたか。

1. 授業以外では操作したことはない……2名
2. 授業以外でも少しは操作したことがある……12名
3. 授業時間と同程度に授業以外にも操作している……6名
4. 授業以外で操作している時間が授業時間より長い……8名

(7) 毎週火・木曜日の16:05~18:30の時間帯に教養棟第2マルチメディア教室 (C181室) が開放されコンピュータが自由に利用できましたが実際に利用しましたか。

1. 5回以上利用した……8名
2. 3~4回利用した……6名
3. 1~2回利用した……5名
4. 利用しなかった……9名
5. 利用できなかったことを知らなかった……0名

(8) その他、希望・意見・改善方法等があれば自由に書いてください。

授業内容について

- ・コンピュータ操作は別の講義にまかせざるべき。文献サーチには大学で使える講義はこれだけなので、前後二つの両方ともやっつけてほしいと思った ・できることなら授業時間を1時間減らしていただきたかったです。今日 (2月5日) は試験期間の上、専門はまあやっつてるもんで。。それとレポート手書きでも良いことにしていただけだと嬉しいです。私ワープでレポートを書くときと異常に時間がかかるとは思いません ・この講義の定員数をもう少し減らしてほしい (パソコンの台数分を定員としても、故障等でパソコンが使用できない場合もあるから) ・電子メールを授業でも1回使用させてほしい ・テキストやフロッピーディスクも用意してくれていて親切だと思った、やる気のなさや先生だと授業のための用意をあまりしてなくていいやだと思った、ホームページの作成をしたい ・コンピュータ関係の語句を今までほとんど知らなかったのが最初かなりとまじい、話を聞いても訳のわからないことがたびたびあります ・グループ毎で演習する時、必ず20分毎に移動しなくてもよいと思います。簡単なところを10分程、難しいところを25~30分程に分けてほしいです ・図書館実習の時、図書館職員の方が丁寧に教えてくださったのが嬉しかったです